

4ステップ構成で、主体的・対話的で 深い学びとなる授業を実現

新学習指導要領で求められている
主体的・対話的で深い学びとなる授業
の実現を目指して、授業の流れを分か
りやすく**4ステップ構成**にしました。

また、本文ページを開かずに課題
発見の**（ステップ1）**に取り組めるように、
現行本の1項目2ページ構成を**1項目
4ページ構成**に変更しました。

●1単元4ページ構成



1項目4ページ構成は、
教える内容を増やすため
ではなく、4ステップを
効果的に進めるための改
訂です。

●現行本(1項目2ページ構成)



▲平成27年度「新編 新しい保健 5・6年」p.18-19

●2年度版(1項目4ページ構成)



▲2年度「新しい保健 5・6年」p.29



▲2年度「新しい保健 5・6年」p.30-31

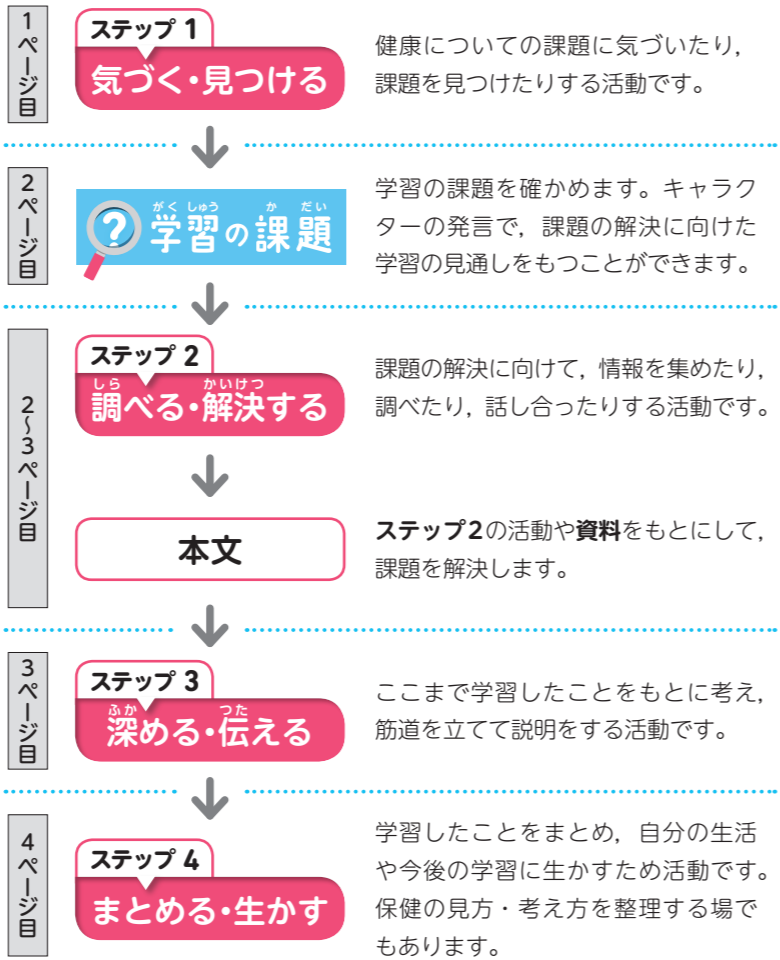


▲2年度「新しい保健 5・6年」p.32

1 項目の基本構成

学習の進め方

右上の図で学習の進め方を確認し、
授業の見通しをもちます。



4ステップ構成でどのよう
に変わったか、同じ項目で
比べてみましょう。

原寸大の
ページはこちら

原寸大

3

交通事故の防止

交通事故を防止するために必要なことについて、
これまでの生活をふり返ったり、資料をもとに
考えたりして、意見を出し合ってみましょう。

学習の進め方を
確認する。

授業の見通
しをもつ

ステップ1

気づく・見つける

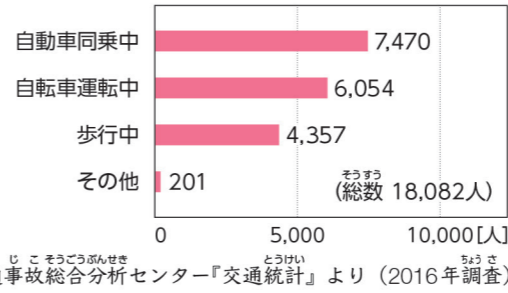
小学生の交通事故の原因には、どんなものがあるのでしょうか。
自分の経験も思い出して、考えてみましょう。

健康についての課題に気づいたり、
課題を見つけたりする。



みんなも、このように
「ひやり」、「はっ」とした
ことはないかな。

小学生の交通事故による負傷者数



メモ 気づいたこと・見つけたこと

▲2年度「新しい保健 5・6年」p.29



学習の課題

学習の課題を確かめる。

交通事故は、どのようにすれば防止できるでしょうか。



ステップ 2-1

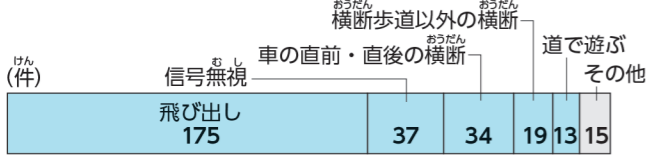
調べる・解決する

交通事故の原因

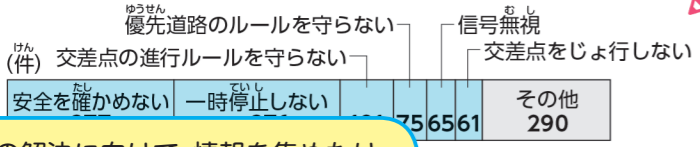
二つの資料をもとに、どんなことに気をつけなければならないか、考えましょう。

交通事故の原因 (小学生)

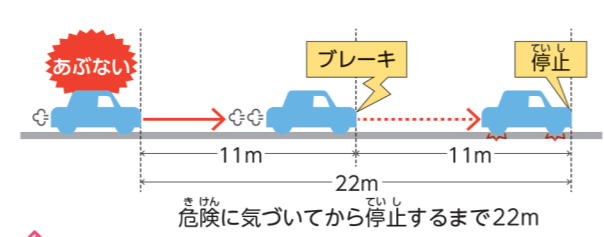
●歩いているとき (計 293件)



●自転車に乗っているとき (計 1,365件)



自動車の停止きより (時速40kmのとき)



課題の解決に向けて、情報を集めたり、調べたり、話し合ったりする。

ステップ 2-2

調べる・解決する

危険の予測と回避



危険の予測と回避 (29ページの交差点の例)

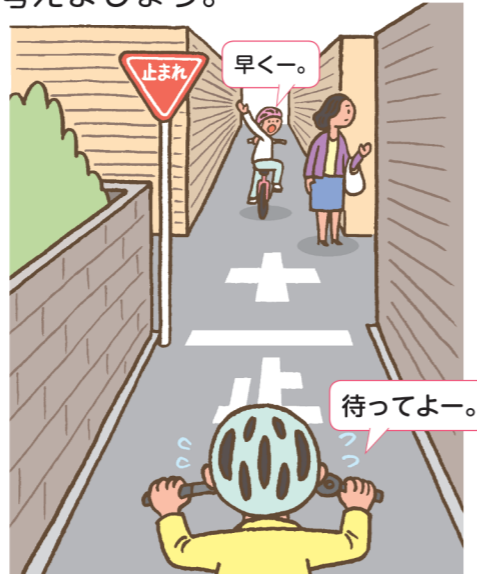
下の絵の場面にひそむ危険とそれを回避するための対策について、人の行動と環境から考えましょう。

ひそんでいる危険

- 人の行動
- 環境
- 起こりそうな事故

対策

- 人の行動
- 環境



友達と自転車で公園に向かっています。友達は交差点をわたり終わって、こちらをふり向きながら、あなたをよんでいます。

ステップ2の活動や資料をもとにして、課題を解決する。

交通事故を防止するためには、学校や地域でのけがの防止と同じように、ひそんでいる危険の予測、的確な判断、安全な行動が必要です。また、交通事故を防止するための環境整備や交通ルール作りも必要です。

交通事故 総合分析センター

交通事故の発生状況などについて調べることができます。

社会 3年

- 地域の安全を守る働き

ステップ 3

深める・伝える

交通事故を防ぐための環境整備の例から、次のことを考えましょう。



ここまで学習したことをもとに考え、筋道を立てて説明をする。



交通量が多くはばの広い道路に、歩道橋を設置する。

1 左の写真の例は、どんな交通事故を防止するためのものでしょうか。人の行動と環境から考えてみましょう。

2 あなたの周りでは、交通事故を防止するために、ほかにどんなくふうがされていますか。下の写真をもとにふり返ってみましょう。また、そのようなくふうがされている理由も考えましょう。

3 ほかの人の意見を聞いて、考えたことや分かったことを書きましょう。

交通事故を防ぐための環境整備の例

信号機

歩行者横断禁止の標識

カーブミラー

ガードレール

歩道、自転車道、車道の 분리 (愛知県名古屋市)

道路の除雪 (北海道札幌市)

28 ページ

資料 ユニバーサルデザインをさがそう

32 ページ

資料 自転車安全利用五則 車の内輪差と事故

ステップ 4

まとめる・生かす

学習したことをまとめ、自分の生活や今後の学習に生かす。
保健の見方・考え方を整理する。

1 () の中に言葉を入れて、今日の学習をまとめましょう。

交通事故の防止には、危険の (), 的確な (), 安全な () が必要です。また、交通事故を防止するための () 整備や交通 () 作りも必要です。

2 通学路の環境や、日ごろの自分の行動をふり返り、自分でできそうな交通事故防止の方法を考えましょう。



次の時間は、「犯罪被害の防止」について学習します。犯罪被害の危険はどんなところにかくれているのか、考えておきましょう。

資料

自転車安全利用五則

自転車に乗るときは、ルールを守り、安全な運転を心がけましょう。
自転車安全利用五則は自転車に乗るときに守るべきルールのうち、特に重要なものを取り上げています。

- ※1 ■道路標識などで、歩道通行できるとされている場合
■車道や交通状況から見て、やむをえない場合
■運転者が児童、幼児、身体が不自由な人などの場合
- ※2 ■6才未満の子どもを一人乗せるなどの場合をのぞく。

1 自転車は車道が原則、歩道は例外※1

2 車道は左側を通行

3 歩道は歩行者優先で、車道寄りをじょ行

4 安全ルールを守る

- ・並進は禁止
- ・信号を守る
- ・二人乗りは禁止※2
- ・夜間はライトを点灯
- ・交差点での一時停止と安全確認
- ・飲酒運転は禁止

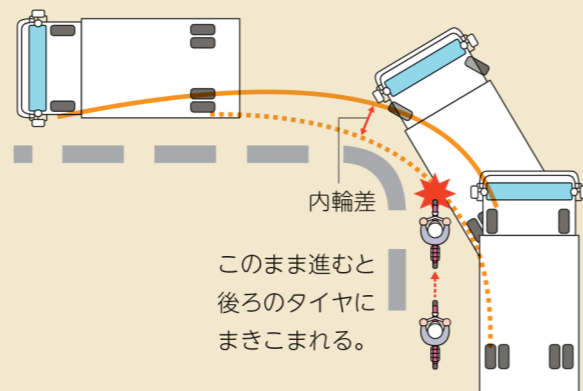
5 子どもはヘルメットを着用

こんな行動はやめましょう。

- ・かさ差し運転
- ・運転中のけい帯電話

車の内輪差と事故

車が曲がる時、後ろのタイヤは前のタイヤよりも内側を通ります。そのため、曲がる時に、後輪で歩行者や自転車をまきこむ事故が起きやすくなります。



このまま進むと後ろのタイヤにまきこまれる。

ステップ 1

「気づく・見つける」の特徴

健康についての課題に気づいたり、課題を見つけたりする活動です。主体的な学びを実現します。

次ページの「学習の課題」につながる端的な発問

「学習の課題」を示す前に、簡単な導入の活動を行うことが多い保健の授業の実態に合わせて新設しました。活動時間は、5分程度を想定しています。



思考を助けるキャラクターの言葉

2 けんこうによい1日の生活

けんこうにすごすための1日の生活の仕方について、毎日の生活をふり返って意見を出し、つたえ合ったり、調べたりしてみましょう。

ステップ1 気づく・見つける 朝、なかなか起きられなかったり、午前中に、ねむくてたまらなかったりすることはありますか。

メモ 気づいたこと・見つけたこと

▲3・4年p.11

右ページに配置しているので、次ページ以降の「学習の課題」や本文を読まずに課題発見の活動に取り組むことができます。



日常生活を想起させ、児童の興味・関心を引き出すダイナミックな写真や分かりやすいイラスト

児童の気づきを大切にしたい記入欄

1 育ちゆくわたしたちの体

これまでのわたしたちの体の成長をふり返り、話し合ったり、調べたりしてみましょう。

ステップ1 気づく・見つける 赤ちゃんの手形やくつのおきさを、今の自分の手やくつのおきさとくらべてみましょう。

メモ 気づいたこと・見つけたこと

▲3・4年p.25

1 事故やけがの原因

事故やけがの原因について、これまでの生活をふり返ったり、意見を出し合ったりして、整理してみましょう。

ステップ1 気づく・見つける どんなとき、事故にあいそうになったりけがをしそうになったりするでしょうか。船の中からさがして〇で囲みましょう。

メモ 気づいたこと・見つけたこと

▲5・6年p.21

1 病気の起こり方

さまざまな病気の起こり方について、これまでの生活をふり返ったり、資料をもとに調べたりして、意見を話し合い、整理してみましょう。

ステップ1 気づく・見つける 私たちは、どんなときにかぜをひくのでしょうか。これまでの生活をふり返って、話し合みましょう。

メモ 気づいたこと・見つけたこと

▲5・6年p.49

ステップ 2

「調べる・解決する」の特徴

課題の解決に向けて、
情報を集めたり、調べたり、
話し合ったりする活動です。

キャラクターの発言が児童の思考を
手助けします。

図版から

ステップ 2-2
調べる・解決する 身長を調べる

※矢印の横の数字は、身長の
のびを表しています。

下の6人の絵は、6才から15才までの身長を表しています。
それぞれの身長を調べるには、どんなながいがあるの
でしょうか。

1 身長を調べるのびをくらべてみて、気づいたことを書きましょう。

2 ほかの人の意見を聞いて、考えたことや分かったことを書きましょう。

太ることを気にして、体重が
ふえることを、むやみに
いやがっていませんか。
身長がふえるときは、
体重がふえることは、
自然なことですよ。

▲3・4年p.28-29

図版や写真、実験結果、データなど、
さまざまな情報から考える。

考えたことを、書いたり発表したり
して伝え合う。〈対話的な学び〉

ステップ 2-1
調べる・解決する 手や体をあらう理由を考えよう。

1 水でぬらしたしぼんで、
手をよくふき、よこれを
調べよう。

2 1と下の実験のけつから、
分かったことを書きましょう。

実験
手のよこれを調べよう。
実験に手のひらをつけて、二日間ほど
おくと、実験の上でふきかき
見えるようになります。水だけで
あらった手、せっけんであらった手を実験に
つけて、きんのふえ方をくらべてみましょう。

▲3・4年p.16

実験結果 から

ステップ 2-1
調べる・解決する 交通事故の原因

二つの資料をもとに、どんなことに気をつければ
ならないか、考えましょう。

●歩いているとき (計293件)
●自転車に乗っているとき (計1,365件)
●自動車の停止より (時速40kmのとき)

▲5・6年p.30

データ から

ステップ 2-1
調べる・解決する 自分の経験から

下の絵のような心の状態のとき、体はどうなるでしょうか。
左の「体の変化の例」から当てはまるものを選び、
数字を□に記入しましょう。

●上の表の例にない場合は、
自分の言葉で書きましょう。

変化の現れ方は、
だれでも
いっしょかな。

二つ以上選んでもいいよ。
自分の経験を思い出して書こう。

楽しいとき
うれしいとき
こわいとき
はざかしいとき
おどろいたとき
張りきっているとき

▲5・6年p.10

自分の 経験から

ステップ 3

「深める・伝える」の特徴

ここまで学習したことをもとに考え、
筋道を立てて説明をする活動です。
深い学びを実現します。

ステップ 3
深める・伝える

まずは、
夜ふかしをやめて、
決めた時間に早く
ねることにしよう。

ほかの人の意見を聞いて、
考えたことや分かったことを書きましょう。

▲3・4年p.13

考えたことを、書いたり発表したり
して伝え合う。〈対話的な学び〉

ステップ 3
深める・伝える

こうきさんがけんこうにすこぶるよく、
アドバイスをしましょう。

学校で手をあらったから、
もうあらわなくていいよ。

下校中の
こうきさんの
様子

アドバイス

▲3・4年p.17

学習したことを活用して
適切な方法を考える。

ステップ 3
深める・伝える

例1～例3のような不安や悩みがあるときに、自分にとって
効果がありそうな対処の方法を考えよう。

例1 仲良しのかずくんとかんか
してしまった。明日からうまく
やっていけるか、
とても不安なんだ。

例2 将来のことを考えると、
なんとなく不安で
しょうがないよ。

例3 5年生になっても、
みんなに比べて
身長が低いよ。

1 下の表の方法のうち、自分にとって効果がありそうな方法に○を付けよう。
●14ページの「対処の方法の例」も見て、考えよう。

| 方法 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | その他 |
|---------|---|----------------|-----------|-----------|--------|-------------|---|-----|
| 一人で考える。 | | 人話したり、相談したりする。 | 生活習慣を整える。 | 好きなことをする。 | 体を動かす。 | 気にしないことにする。 | | |
| 例1 | | | | | | | | |
| 例2 | | | | | | | | |
| 例3 | | | | | | | | |

2 記入した表を見て、気づいたことや考えたことを書きましょう。

3 ほかの人の意見を聞いて、気づいたことや考えたことを書きましょう。

あなたが選んだ方法は、
例1～例3で
同じだったかな。

あなたが選んだ方法と、
友達を選んだ方法は、
同じだったかな。

▲5・6年p.15

学習したことを自己の生活と
比べたり、関連づけたりする。

ステップ 3
深める・伝える

交通事故を防ぐための環境整備の例から、
次のことを考えよう。

1 左の写真の例は、どんな交通事故を防止するためのもの
でしょうか。人の行動と環境から考えてみましょう。

2 あなたの周りでは、交通事故を防止するために、ほかにどんなふうがされていますか。
下の写真をもとにふり返ってみよう。また、そのようなくふうがされている理由も考えよう。

▲5・6年p.31

ステップ 3
深める・伝える

下の二つの遊び場の絵を比べて、犯罪被害の防止について
考えてみよう。

1 二つの遊び場のうち危険だと思ふほうの□にXを付けよう。また、その理由を書きよう。

2 Xを付けた遊び場で犯罪被害にあわないようにするには、どうしたらよいでしょうか。

3 ほかの人の意見を聞いて、考えたことや分かったことを書きよう。

理由
環境
人の行動

▲5・6年p.35

ステップ2、ステップ3
では、必要に応じて補助
発問1・2・3を設け、
児童が無理なく思考を進
めることができるように
しました。

補助発問

ステップ 4

「まとめる・生かす」の特徴

学習したことをまとめ、自分の生活や今後の学習に生かすための活動です。保健の見方・考え方を整理する場でもあります。

3・4年

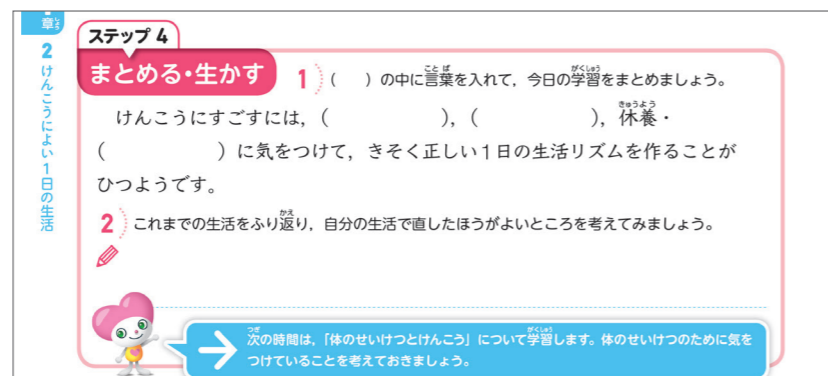
1の活動

() に言葉を記入しながら、学習の要点をまとめます。

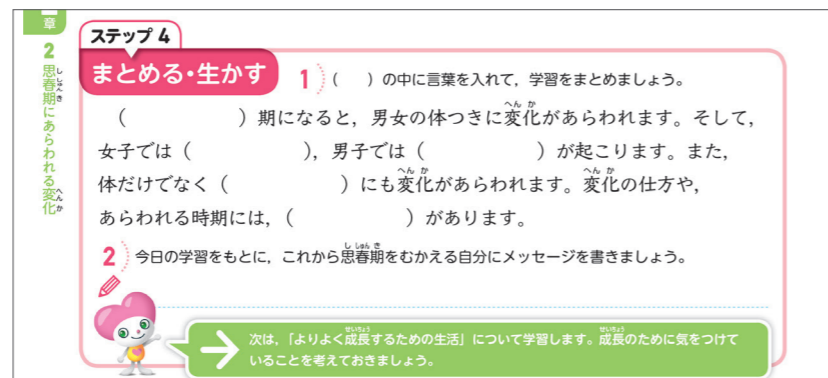
2の活動

学習したことを自己の生活と比べたり、関連づけたりして、これからの生活に生かすことを考えます。

ワークシートを用意しなくても、授業のまとめをすることができます。



▲3・4年p.14



▲3・4年p.36

5・6年

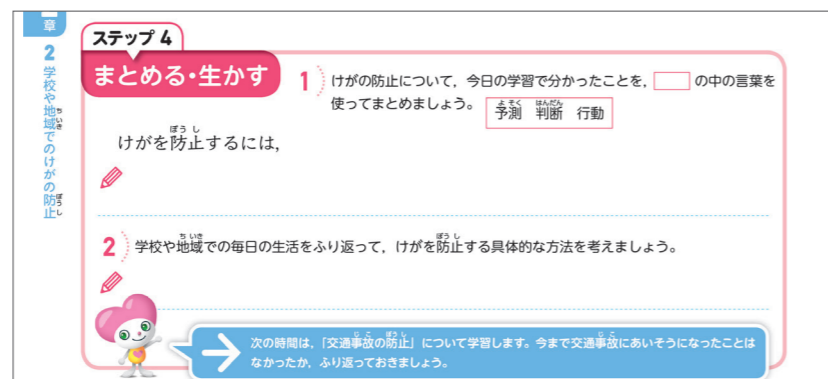
1の活動

示された言葉を使って文章を作成したり、問いに答えたりしながら、学習の要点をまとめます。

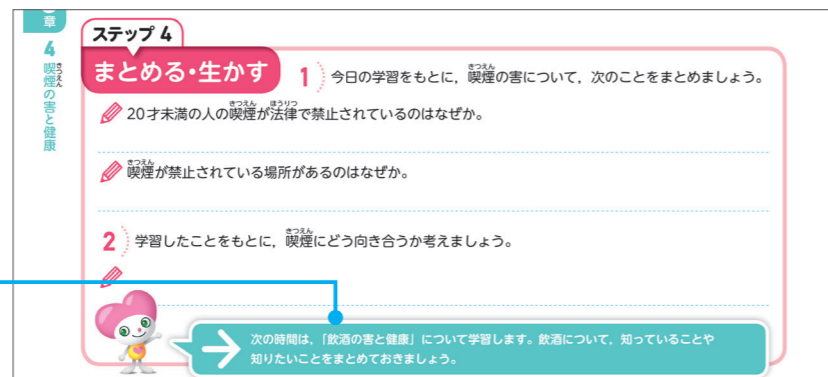
2の活動

学習したことを自己の生活と比べたり、関連づけたりして、これからの生活に生かすことを、具体的に考えます。

ステップ4の最後に、次の学習の内容の予告と、それまでにしておくといふことを示しています。



▲5・6年p.28



▲5・6年p.66

3つの特色を
具現化する
ための工夫
2

A4判で記入欄を拡大 思考・判断・表現を促し、学びの記録を教科書に



「新しい保健」は、A4判を採用し、大判化を図りました。天地が40mm大きくなったことで、次のことが可能になりました。

A4判のメリット

1 記入欄の拡大 (→本書10～12ページ紙面サンプル参照)

教科書に思考・判断したことを表現し、学びをふり返ることができるようにしました。学びの記録は評価の手がかりにもなります。

2 ステップ1のダイナミックな導入 (→本書9ページ紙面サンプル参照)

ステップ1では、写真やイラストをダイナミックに用いて、児童の主體的な学びを促すことができるようにしました。

3 特別支援教育に配慮した見やすい紙面 (→本書18ページ参照)

活動場面(ステップ1～4)と本文を明確に区別するとともに、学習順序が分かりやすいようにレイアウトしました。

用紙の軽量化

筆記特性(書きやすさ)が高く、耐久性に優れ、軽量の紙を開発し、使用しました。重量による身体的負担の軽減に配慮しました。

教科書に書き込めるのでノートが不要です。

書き込みしやすい用紙を使っています。